



登熟向上のための水管理

☆ 早期の落水による収量・品質低下に注意！

8月1日現在の作況は平年より2日進んでいます。作況「ななつぼし」では7月23日に出穂期を迎えており、初期登熟は順調に進んでいます。

ただ、ほ場によっては、やや登熟に時間を要しているほ場も見受けられ、生育がだらつく可能性があります。

この時期に土壤水分が不足すると登熟に支障をきたし、品質(乳白・腹白粒の増加)や収量(粒厚が薄くなる)の低下を招きます。

開花・受精後米粒は急速に成長し、澱粉の蓄積が完了する出穂後25日頃までは大量の水分を必要とします。

適正な土壤水分の維持に努め、収量・品質の低下を防ぎましょう。

時期	管理の目安
開花終了後	間断かんがいを実施し土壤水分を保つ。 「まず浅水に」→「放置」→「表面にひびが入る前に再入水」
落水時期	○通常は 穂かがみ期頃(出穂後25日頃) ～玄米の大きさが最大になる頃)を目安に落水。 ○排水不良田などで 穂かがみ期以前に落水する場合 も 穂かがみ期までは 土壤表面にひび割れが生じないよう適宜走り水 を実施する。
落水後	田面に靴底跡が1cm位つく程度の土壤水分の確保 に努める。 (表土1cm下の土を握ると、指の間から水がにじみ出る程度) 乾きの良い水田では、 断水前に一度5～10cm程度湛水 して落水後の土壤水分を適正に保つ。

農作業事故に十分注意しましょう！